

タウンミーティング議事録

1 日 時

令和2年7月19日（日）午前10時から11時30分まで

2 場 所

北部公民館 大会議室

3 参 加 者

（1）特別職等

井崎市長、石原副市長、田中教育長、志村上下水道事業管理者

（2）部 局 長

須郷総合政策部長、伊藤市民生活部長、早川健康福祉部長、
秋元子ども家庭部長、石野まちづくり推進部長、石井土木部長、
菊池教育総務部長、前川学校教育部長

（3）事 務 局（秘書広報課）

若林課長、影山課長補佐、梅木主任主事、須賀主事、
金子会計年度任用職員、三好係長（記

4 来場者数

30名

5 質疑回答

裏面のとおり

Q 市民

新しく流山に住んだ人に良かったと思ってもらうため、キッコーマンアリーナにグラウンド（ジョギングコース）を作ってほしいです。アリーナの周りをジョギングしている人が危険です。

A 市（市長）

現在のキッコーマンアリーナは、旧総合体育館の陸上競技場があった場所に建てられていますが、以前から陸上競技場としては機能しておらず、ジョギングやサッカーの練習で利用されている程度でした。

陸上競技場については、近隣に柏の葉公園の陸上競技場があり、千葉県の施設ですから大いに利用していこうと考えていますので、流山市では陸上競技場を整備する予定はありません。

A 市（まちづくり推進部長）

現在、キッコーマンアリーナを含めて総合運動公園の再整備を進めています。ジョギング専用のコースではありませんが、園路に幅を持たせて走りやすくし、地面の距離表示や看板の設置など工夫していく予定です。

Q 市民

人工透析患者が（新型コロナウイルスに）1人でも感染した場合に、どのような体制が準備されているのかを懸念しています。現在、東葛病院に207名、愛友会記念病院に60名、おおたかの森（病院）と合わせると300名以上の患者がいます。感染しても人工透析を継続しないと患者は死んでしまいます。しかし、流山市の近隣市にはそのような環境は無いということです。

次に、暫定的に、人工透析患者が感染した場合に、どのような手順となりどちらの病院に行けばいいのですか。それが見えるような体制を作ってください。市の回答は「国と県の状況を注視します」とのことです。今は松戸保健所に連絡するしか手段がありません。市としてできることを考えてください。

A 市（健康福祉部長）

人工透析患者さんのご不安・ご心配については、しっかりと持ち帰り、

今後の医療体制について県と連携しながら不安の解消に努めていきます。

現時点の対応については、患者個人が感染した場合は人工透析を継続することが大命題ですから、県において人工透析機能のある成田や千葉大の病院への入院調整を行います。

市内の入院体制については現在のところ構築できておりません。しかし広い意味でコロナの患者が発生した場合に市内で受け入れが行えるよう、市から医療機関に対して、入院患者の受け入れ1人につき5万円・1日の治療につき3万円を助成する市独自の制度を構築すべく、6月議会で補正予算を認めていただいたところです。当然ながら、人工透析機能のある病院で受け入れ態勢が構築できれば、人工透析患者の受け入れについても実現性が高くなると考えます。

Q 市民

流山市でPCRの検査体制が構築されると聞きました。これまで何も構築できていない状況でしたので、早めに対応をお願いしたいです。

A 市（健康福祉部長）

PCRの検査体制については、現在、医師会と松戸保健所と共により具体的な詰めを行っています。これは県から費用の助成が受けられるものです。もうしばらくお時間をいただきますが、体制が整いましたら「いつから開始する」といったアナウンスを行いたいと思います。

Q 市民

平成28年度に市議会で陳情が採決されましたが、現在ではその結果が不透明になっています。学校建設について反省がありません。建設予算が見込みで計上され、国からの補助金をオーバーしています。

また、学校教育は今の時代に対応できる体制になっていますか。例えばコロナの影響で待機児童が虐待されるなどの懸念もあります。私生活も含めて教育長が方向性を持たせるべきです。

また、保育所の子どもたちにマスクを配付するなど感謝されている部分があります。今後は良いところを残し、改めるべきところはきちんと改革するなど、取捨選択を行うべきです。それが流山市のこれからの道だと思います。

また、東深井や西深井地区はインフラが進んでいません。いつまでに何をするのか、広報等で市民に知らせてください。おおたかの森周辺だけが開発が進んで利便性が良くなり、地域によって差が出ているのはどうかと思います。良質な環境を作るのであれば、インフラにも力を入れて取り組んでください。

また、野田市は水道料金を無償にしています。流山市は「考慮します」と言います。生活に苦しい人がいますので、考慮ではなく決定して進めてください。

A 市（副市長）

財政については、先般、健全財政維持条例をスタートしました。

確かに流山市は毎年人口が5,000人以上増えており、ゆりかごから墓場まで全て費用がかかります。そのような中で、詰めるところは詰め、支出するところは支出する、メリハリをつけた経営を行っています。

学校建設については、文部科学省の制度が3年先の児童推計までしか補助金の対象にしていなかったため、本市では独自に6年先まで想定を行い、見込み違いを発生させないように努力しています。ただし人口は急増していますので、学校建設のために多くの財源を投下せざるを得ないことは事実です。

私たちは、本当に困っている人、例えばひとり親家庭や生活に困窮している方々に対しては手厚く対応するという考えです。ごみ問題の解決や、水道の無償化についても、まずは支払いの猶予を行い、それでも払えない方に対してはさらに考慮したいと考えますが、払える方には払っていただくのが原則です。コロナウイルスに関しては市民に等しくしわ寄せがきていますので、その中で最大限の努力をさせていただきます。

昨年度の決算については、おかげさまで21億円の黒字となりました。この余剰金については、今後も続いていく学校建設、その他、社会資本の整備に充てていきたいと思えます。

Q 市民

これまで市職員からは「生活に困っている人にはそれなりに対応します」との言葉は一言もありませんでした。職員の回答からその部分が抜けてしまうと問題定義が変わってきてしまいます。市職員の教育についても管理

者の責任が問われると思います。

A 市（教育長）

長い休校期間の中で、子どもたちは虐待だけでなく色々なストレスを抱えています。保護者の方も不安を抱かれています。

教育委員会ではこれまで情報発信に力を入れてきました。先日の広報ながれやまでは、1面に教育相談を充実させるという記事を掲載しました。休校期間中は、家庭訪問をしたり、電話でお子さまの状況を伺ったりしてきました。学校が始まってからは、子どもの個人面談や、学校によっては保護者との3者面談を通じて、子どもと保護者の両方の不安を解消できるよう取り組んでいます。

コロナ禍はすぐに終わるわけではありません。今後も教育相談を充実させると共に、今年度はいじめ対策室を設置しましたので、専門的な意見をいただきながら取り組んでいきます。

Q 市民

おおたかの森小・中学校では朝の8時過ぎに煌々と電気がついています。無駄な経費を削減すべきです。教育長たるもの、朝早くから学校を見てまわらなければいけません。

A 市（教育長）

すでにいくつかの学校はまわっていますが、おおたかの森小・中学校はまだ行っていませんでした。これから細かく時間を作ってまわっていきたいと思います。

Q 市民

令和2年度流山市一般会計予算、当初は698億3,500万円でしたが、現在では908億円まで膨らんでいます。約210億円増えていますが、このうち195億円は国からの補助金でしたので、差し引き15億円が市の支出です。

広報ながれやま、市民でしたら是非読んでください。良いことばかり書いています。ポスティングシステムもありますのでどうぞ使ってください。人口は19万7,881人とのことです。世帯は8万3,000世帯にま

で膨れ上がっています。

私が言いたいのは、私は財政白書を1,000円出して買っていますので、市長、この機会に部局長に財政白書を1,000円で買うように言ってください。無料で配られているのはおかしいです。

流山市には財政調整積立金が45億円ありますが、ほとんど支出されていません。コロナ禍だけでなく、インフルエンザ、災害、透析患者にも使われるべきです。

また、流山市の予備費はいくらですか。何と何に使われるのですか。

A 市（市長）

本日は財政部長がいませんのでお答えできる範囲で回答します。

令和2年度の当初予算は698億円で、その後910億円程度になりました。これは、先般の国の10万円給付施策として補助金197億円が追加されたものであり、全国の全ての市町村に支出されています。

流山市ではさらに10億円余りを支出していますが、これはコロナ対策のため補正予算を組んだものです。

補正予算の財源が財政調整積立金であったりするわけです。節約できた部分は積立金に積み返して、金額を維持できるように続けています。

Q 市民

そうではなくて、今（積立金を）使わなければ倒産する企業もいるし、明日を暮らせない人々がいます。あなたは17年間も市長をやっていてそんなこともわからないのですか。私はあなたの有権者だから言っているんです。

A 市（市長）

先程説明したように、流山市内の事業者が事業を継続できるように、中小企業向けの融資をしています。コロナの影響で資金繰りが詰まって閉店したという話は今のところ聞いていません。これから、やる気のある事業者が、あるいは発展していきたいと考える事業者が資金繰りで詰まらないようにしっかり支えていきたいと思います。

財源は財政調整積立金だけではありません。色々な形で活性化を図り、あるいは維持していけるような状況を作っていきたいと考えます。

予備費については、本当に予備のための費用です。約１億５，０００万円を計上していますが、例えば、３月の積雪の時期に降雪対策や除雪のためや、台風の事後処理のために使われます。

最初から支出が想定されているものを予備費に入れておくというのは、健全な財政運営ではありません。当初予算、あるいは補正予算として計上すべきです。

Ｑ 市民

コロナウイルスのことが連日テレビに出ています。緊急事態宣言による外出自粛もありました。東京では危険な状態だと報道されており、政府が後手に回っていると言われていています。

市もＰＣＲ検査センターを設置する話が出ていましたが、後手に回らずに進めてください。また、ホテルを借りて隔離するなどできないでしょうか。一番心配なのはクラスター感染です。介護施設に介護士が行って感染するようなことが起こらないように対策してほしいです。

また、流山市では安心・安全なまちづくりを進めており「母になるなら流山市」「都心から一番近い森のまち」とのキャッチコピーもあります。おおたかの森の道路は新しくて歩道も広いですが、西深井のほうはひどいところが多いです。

Ａ 市（土木水道事業管理者）

西深井では下水道工事を行っており一部の道路に凹凸が出ていますが、翌年度に舗装を行う予定です。１年間ほどご迷惑をおかけしますが、早急に対応したいと思います。

Ｑ 市民

道路課で点検をお願いしたら「それはやっています」とのことでした。もっと職員を増やしてサービスを充実してください。

Ａ 市（土木部長）

我々も現場に出て市内全体をパトロールするようにしています。

できれば自治会としてご指摘いただければ、その場所を確認して補修工事が必要であれば行いたいと思います。

A 市（健康福祉部長）

新型コロナウイルスに関するご意見についてはしっかり受け止めます。感染予防が第一ですが、感染が起こった場合は拡大防止が重要ですので、その点を心得た上で今後取り組みます。

Q 市民

去年、流山市手話言語条例が施行されましたが、市民にはこの条例を理解している人がどのくらいいるのでしょうか。市としてさらに普及するため、どのような施策を考えていますか。

また、PCR検査を行うとのことですが、（聴覚障害者には）詳しい情報が入りにくい状況です。PCR検査をどのような内容で、また、どのような方法で行うのか、聴覚障害者にもわかりやすい形で進めてほしいです。

A 市（健康福祉部長）

手話言語条例の「手話は言語である」という理念については、中長期的に力を入れて、ひとりでも多くの方々に広めていきたいと考えています。

去年はフォーラムを開催したほか、今年の2月にはNHKの手話のテレビ番組で活躍されているモンキー高野さんをお招きして、手話による講演会を開催しました。いずれのイベントにも100名以上の方が詰めかけ、手話が言語であることを実感していただけたと思います。今後もこのような取り組みを続けていきます。

さらに、出前講座を通じて地域にお邪魔するという形でも広めていきたいと思います。現在はコロナの状況下ですので、どのようにすれば実施できるかを検討していきます。

PCRセンターについては、設置時期や利用方法が決まりましたら、聴覚障害者の方にもわかりやすい形で伝えられるように工夫したいと思います。

Q 市民

聴覚障害者には情報が渡りづらいので、市政全般についてわかりやすく情報を提供していただければと思います。

Q 市民

国土交通省から河川の防災アプリが出ていて川の水位がわかりますが、流山市ではカメラが江戸川に1台しか設置されていません。このアプリは避難の判断にも使われています。国土交通省にカメラの台数を増やすよう働きかけてください。また、利根運河には水位計がありますが、先般の台風でも役に立たなかったという話があります。利根運河にもカメラを設置してほしいです。

また、ハザードマップにより内水氾濫が起これそうな場所はわかると思いますので、市民に周知してください。

次に、大分県の日田市では、防災ラジオにより住民の避難スイッチが入ったそうです。防災ラジオは1台6,000円くらいします。市から補助を出すことはできませんか。防災無線は全く聞こえないという話も聞きますので、防災無線に代わる手段を考えるべきです。

A 市（市民生活部長）

九州地方の大雨の際、地域の方によると防災ラジオが避難スイッチに有効だったという話がありました。

以前、流山市においても防災ラジオの検討を行いました。市の防災無線の設備では電波の状況が悪く、雑音が入ったり、聞き取りにくいという状況がありました。現在では住宅の気密性が高くなり電波が届きづらいほか、マンションの鉄筋コンクリートの中にも電波が入りづらい状況です。今のところ防災ラジオを導入する予定はありません。

このため、市では情報の多重化を進めています。現在の安心メールのほか、SNSやスマートフォンにも情報が届くようにしています。また、防災アプリ「Yahoo!防災速報」を活用していち早く情報が届くようにしています。

Q 市民

今の話は耳が聞こえる人に向けた話ですので、耳が聞こえない人にも情報が届くようにお願いします。

A 市（市民生活部長）

安心メール、防災アプリは文字情報で伝達されますので、皆さまに登録

いただけるよう進めさせていただきます。

A 市（市長）

Y a h o o ! 防災速報は、命に関わるような情報が入ってきます。安心メールの場合は、そのような情報に加えて、避難生活や災害後の生活に必要な情報なども入ります。

両方に登録すると同じ情報が重複して届く場合がありますので、まずは安心メールに登録をして、さらにY a h o o ! 防災速報の登録も考えていただければと思います。

A 市（土木部長）

江戸川は国の管理であり、恐らくカメラの設置基準が定められていると思いますが、まずは江戸川河川事務所に確認を行い、設置可能であれば市から正式な要望を上げたいと思います。

内水氾濫については、江戸川のハザードマップのほか、内水ハザードマップがあります。昭和50年代には坂川が溢れて鰯ヶ崎地区の内水氾濫がありましたが、その後、つくばエクスプレスの影響で治水工事が進んだほか、市内の耐水整備が行われました。これらの問題は解消されつつあり、少なくとも昨年では市内において大きな被害は無い状況です。

Q 市民

大橋団地では被害があったと聞いています。

安心メールのような文字情報だけでは避難スイッチは入るとは思えません。もっと情報を見えるようにしてください。「水害が発生しました」という状況から避難しても遅いので、その前に住民が情報を目の当たりにするような手段を考えてください。

Q 市民

今年の4月から看護師の養成に関する就学資金ができました。地域住民の命と健康を守る看護師を行政がバックアップしてくださることに心から感謝しています。併せて、学生応援給付金を全国に先駆けて作っていただいたことに大きな期待をしています。

看護師の養成機関では、8割を超える学生が就学資金を利用しており、

８５％の学生がアルバイトをしています。このアルバイト代の７割が学費に使われており、多くの学生がアルバイトで学費を稼いでいるというのが実態です。

今回のコロナ禍の影響で４９％の学生のアルバイトが無くなり困っています。しかし、後期、あるいは次年度のためにとっておいたお金を支払ったり、両親などからお金を借りて支払った場合は、この学生応援給付金の対象外となってしまいます。後期、次年度の学費が無い学生は、退学も含めて考えなければならない状況です。

学生応援給付金の交付実績は１１０万円ですが、予算は４，０００万円確保されていると聞きました。是非、対象者の拡大、あるいは、後期・次年度も対象としていただきたいと思います。

A 市（市長）

後期の授業料についても学生応援給付金の対象とする予定です。後期の授業料は９月頃に支払われると思いますので、８月中旬・下旬頃からお知らせすることを検討しています。

Q 市民

３５年前、ネオハイツが出来たときは小学生が９０人おり、全員が無条件に八木北小学校に通いましたが、現在では八木北小学校が０名、西原小学校が５名の状況です。

西原小学校は柏市の小学校であり、行事などの連絡が全く来ません。子どもの成長を見守るため、市としてどのように考えていますか。

A 市（学校教育部長）

保護者の判断で市外の学校に通う「区域外通学」制度があります。

ご要望については、流山市教育委員会から柏市教育委員会に伝え、柏市教育委員会から西原小学校に伝えていただき、自治会にご案内が届くよう働きかけたいと思います。

Q 市民

運河駅の駅舎の橋上化の際は、市が全て寄付を行い東武鉄道が大儲けしたと聞いています。本来、東武鉄道が出すべき部分も流山市からの寄付行

為で賄っているとのことでした。

初石駅でも同じことをやりますか。寄付の状態がどうなっているのか、住民の意見はどうか、市はどのような考えなのか教えてください。

A 市（まちづくり推進部長）

初石駅の駅舎の橋上化については、流山市・柏市を含む地元の方々から「東口に改札をつけてほしい」という大きな要望がありスタートしたものです。現状は基本設計の段階であり、費用の負担に関しては、東武鉄道には基準に基づいた負担をしていただいた上で、国の交付金、柏市、流山市において検討を進めていきたいと思っています。

この件については、7月26日に地元の方々との意見交換会を予定しており、詳しい話をしたいと思います。

なお、東口からエレベーター・エスカレーターを併用した自由通路については、流山市の施設として整備を行います。